

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第5区分
【発行日】令和6年6月10日(2024.6.10)

【公開番号】特開2022-189540(P2022-189540A)
【公開日】令和4年12月22日(2022.12.22)
【年通号数】公開公報(特許)2022-236
【出願番号】特願2021-98171(P2021-98171)
【国際特許分類】

D 0 4 B 1/02(2006.01)

D 0 4 B 1/00(2006.01)

D 0 4 B 7/02(2006.01)

D 0 4 B 7/12(2006.01)

【F I】

D 0 4 B 1/02

D 0 4 B 1/00 Z

D 0 4 B 7/02

D 0 4 B 7/12

【手続補正書】
【提出日】令和6年5月30日(2024.5.30)
【手続補正1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項1
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項1】

前後方向で対向する少なくとも一組の針床を備え、針床間の歯口上方に複数の糸道レールを備える横編機で、針床の長手方向に、編糸としてパイル糸と地糸とをそれぞれ給糸する先行の給糸口と後行の給糸口とを異なるトラックで往復走行させながら、一方の針床でベースとなる編目をパイル糸および地糸で形成し、他方の針床でパイルループをパイル糸で形成するパイル編成を、一方と他方とを交代して行い、予め定める組み合わせとなる1サイクルのパイル編成を繰り返して筒状パイル編地を形成する編成方法において、

1サイクルのパイル編成に、編糸としてパイル糸および地糸と異なる付加糸をベースとなる編目を係止する編針に給糸して付加編成を行うことを追加し、

付加編成は、袋付加編成を含み、

袋付加編成は、

少なくともパイル糸と地糸との交差が生じる側の前後境界を挟む編地の端部領域で、かつ、パイル編成で形成されたベースの編目を係止する編針が属する針床に対向する針床で袋編みを行い、

編地の他の領域では、当該ベースの編目を係止する編針に新たな編目を形成する、

ことを特徴とする筒状パイル編地の編成方法。

【手続補正2】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項5
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項5】

前後に針床を備える横編機で編糸としてパイル糸および地糸を使用して編成される筒状パイル編地において

前後の針床でそれぞれ編成されたパイル編地で、少なくともパイル糸と地糸とが交差する側の編幅端部の前後境界を挟む端部領域に、パイル糸および地糸と異なる付加糸による袋編み部分を有する、

ことを特徴とする筒状パイル編地。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

10

前後に針床を備える横編機では、編地を筒状に編成することも可能である。筒状の編地は、前針床では一方向に、後針床では他方向に、それぞれ編地を編成し、端部で連結することを繰り返して形成する。パイル編地の編成でのパイル糸と地糸との給糸は、キャリッジとともに走行する2つの給糸口を使用して行う必要がある。筒状編地の編成で、複数の給糸口を使用する技術も知られている（たとえば特許文献2参照）。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

20

本発明は、前後方向で対向する少なくとも一組の針床を備え、針床間の歯口上方に複数の糸道レールを備える横編機で、針床の長手方向に、編糸としてパイル糸と地糸とをそれぞれ給糸する先行の給糸口と後行の給糸口とを異なるトラックで往復走行させながら、一方の針床でベースとなる編目をパイル糸および地糸で形成し、他方の針床でパイルループをパイル糸で形成するパイル編成を、一方と他方とを交代して行い、予め定める組み合わせとなる1サイクルのパイル編成を繰り返して筒状パイル編地を形成する編成方法において、

1サイクルのパイル編成に、編糸としてパイル糸および地糸と異なる付加糸をベースとなる編目を係止する編針に給糸して付加編成を行うことを追加し、

30

付加編成は、袋付加編成を含み、

袋付加編成は、

少なくともパイル糸と地糸との交差が生じる側の前後境界を挟む編地の端部領域で、かつ、パイル編成で形成されたベースの編目を係止する編針が属する針床に対向する針床で袋編みを行い、

編地の他の領域では、当該ベースの編目を係止する編針に新たな編目を形成する、ことを特徴とする筒状パイル編地の編成方法である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

40

また本発明で前記パイル編成は、

前記ベースの編目の形成後の工程で、対向する針床に係止されるパイルループを払えば、筒状パイル編地の内周側に向くパイルループを形成し、

当該工程で、対向する針床でパイルループに係止している編針間の空針に目移ししてから、パイルループを払えば、筒状パイル編地の外周側に向くパイルループを形成する、

ことを特徴とする。

50